

単元名 8 自分を見つめる ー随筆二編

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語句や表現技法の効果的な用い方について、理解を深めることができる。
 (2) 作者の思いを想像しながら読み味わい、自分のものの見方や考え方を広げることができる。
 (3) 随筆を読んで、内容や表現の仕方について考えたことを交流しようとする。

標準的な展開例

10210304_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 作品を読んで、初読の感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作者の書いた他の作品を読み、感想を交流する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★「空」「えんぼう」を読み、心に残った表現について考えよう。 ○ 作品の範読を聞く。 <p>○ 各自で音読をする。</p> <p>○ 作品の中の好きな言葉や表現を抜き出し、理由を書く。</p> <p>2 言葉や表現に着目して、作者の思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に書いた、自分が好きな言葉や表現について、その理由も合わせて発表する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★作品の言葉や表現に着目して作者の思いを想像しよう。 ○ 作品の表現の特徴について気が付いたことを話し合う。 <p>○ 表現の特徴をもとに、作者の伝えたかったことを考える</p> <p>○ 自分の体験を振り返って伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数編の作品を準備しておき、好きな作品や心に残ったところなどを自由に考えさせる。 ・ 教師による範読または、国語指導CDを活用する。 ・ 範読が終わったら、音読するときに気を付けるところを考えさせ、メモを書かせる。 ・ 「声を届ける」(p.16)を参考にさせる。 ・ 各自で音読をし、終わったあとに、数名を指名して音読させ、気をつけるとよいところを話し合わせる。 ・ 情感のある表現に着目させ、語感を磨き語彙を豊かにしていきたい。 【評】心に残った表現について理由を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する 【評】表現や理由を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 特徴的だと感じられたところに線を引かせる ・ 様子を見て、必要であれば着目する点を示してもよい。 ・ 「空」は、自然の美を感じた経験、「えんぼう」は、言葉についての古い記憶について述べている点を押さえたい。 ・ 「空」では、「筆者が『風花』ではなく『空』という題名を付けたのはなぜか」について考えさせてもよい。 ・ 「えんぼう」では、「『えんぼう』という言葉は、幼い『私』にとってどのような意味をもっていたか」について考えさせてもよい。 【評】作者の伝えたかったことを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 自分自身の体験を振り返らせ、忘れられない「自然の美しさ」や「言葉」について伝え合わせる。 ・ 「構成や描写を工夫して書こう」(p.220)の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。

【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになったりした書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のCー(11)正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。